

2020年度 通常総会要項

特定非営利活動法人

ルワンダの教育を考える会

<NPO THINK ABOUT EDUCATION IN RWANDA>

# 教育は平和と発展 の鍵

~Education is the key to peace and development~



日時 2020年6月14日（日曜日）

15時00分から

場所 ルワンダの教育を考える会事務所（Zoomによる総会）

## 総 会 次 第

1. 開会のことば
2. 理事長挨拶  
議長選出
3. 議事録署名人選出（2名）
4. 定足数の確認
5. 議事
  - 第1号議案 2019年度事業報告に関する件
  - 第2号議案 2019年度会計報告に関する件  
「監査報告」
  - 第3号議案 2020年度事業計画（案）に関する件
  - 第4号議案 2020年度会計予算（案）に関する件
  - 第5号議案 コロナ緊急募金に関する件
  - 第6号議案 2020年度役員に関する件
6. 事務局長その他職員の任免
7. 事務連絡
8. 閉会のことば

## 1. 特定非営利活動に係る事業

### (1) 内戦の体験に基づく命と平和、教育の大切さを伝える事業

会員の紹介、学校・公民館、各種団体等からの依頼を受けて、福島県をはじめ国内各地、計68ヶ所で講演を行い、マリールイズが自身の体験から平和の尊さ、命の大切さ、教育の重要性を訴えた。また会が取り組んでいるルワンダでの学園支援、健康診断、貧困地区の子ども支援などの諸活動を紹介し、支援を呼びかけた。3月からは、コロナウイルスの影響でキャンセルが続いている。

・講演回数：(県内11 県外57) 合計68

### (2) ルワンダの教育支援事業

2016年当会の現地事務所がルワンダ政府からNGOの承認を受けたことで、これまでの学園支援からその周辺の貧困地区(ギチュンビ市ミヨベ)の支援事業も行い引き続き活動をしてきた。

マリールイズは、ルワンダに長期滞在し関係団体と協議しながら以下の事業をすすめてきた。

#### [マリールイズ滞在期間]

2019/7/30~8/24 8/30~10/30 2020/3/19~5/1(予定)

※コロナの影響で現在まだ帰国の予定がたっていない

#### ① ウムチョムイーザ学園支援

昨年11月には6年生38名が卒業し中学校に進学した。学園の卒業生は2007年から数え今回13回目、これまで363名が巣立った。現在、学園では幼稚園と小学校をあわせて247名の生徒達が学んでいる(2020年2月時点)。コロナウイルスの関係で3月半ばから休校中。

#### ② こどもの健康診断事業

9月に子ども達の健康診断を行った。

また、5年間の健康診断を実施した報告と、学校に通う子どもたちにとって、定期的に健康診断をすることの大切さをシンポジウムを開催し、大使や医療関係者、学校やその他関係者に伝えた。

#### ③ ミヨベプロジェクト(ギチュンビ市ミヨベ地区支援事業)

2017年7月より、ルワンダ北部に位置するギチュンビ市ミヨベ地区での貧困地域の支援を始めた。支援に先立ち地区を管轄する行政(ギチュンビ市)と当会がミヨベ地区の支援活動に関するMOU(覚え書き)を交わした(活動期間5年間)。

支援する地区(25世帯124名と地区内幼稚園の子ども達)は、自立できる産業がなく日雇い労働で貧困層が多いこと、山間部のため給水が極めて悪く子ども達の衛生状態が悪いこと、食糧事情から栄養状態も悪いという問題を抱えている。これらの諸問題を解決するため行政と協力し、住民が収入を得て生活基盤ができること、子ども達の栄養状態改善と学べる環境をつくることを目指し

ている。その第1歩として、栄養失調改善のため1日1食のおかゆと給食を幼稚園の子ども達へ提供している（年少42名、年中50名、年長44名合計136名 2/27現在）。また前年に引き続き9月に子ども達の健康診断を実施し栄養状態を確認した。農業支援も少しずつ始まっており、野菜作りを通して家族の健康管理や生活向上が、少しずつできるようになってきた。

※保原ロータリー（日本）と、ビルンガロータリー（ルワンダ）との共同事業は、打ち合わせを重ねながら、準備を進めている。

#### ④ ルワンダでの講演活動

8月に開催されたピースコンサートの時や、日本人学生がルワンダに来た時など、3回ほど講演をした。その講演を聞いたことがきっかけになり、その後、インターンとしてルワンダ事務所を手伝ってくれることになった学生もいた。

### (3) 異文化理解のためのイベント事業

#### ① Rwandaful Summer2019（2019/7/15）郡山市中央公民館

1部では、マリールイズ理事長からの現地の活動報告や、最貧困地区に指定されているミヨベでのプロジェクトの様子を報告した。また、2月のスタディツアーの参加者で新潟大学の学生サークルRWAN-JA（ルワンジャ）の学生ふたりが給食室での子どもたちの生き生きとした様子を報告した。そして、設立当初から関わっている当会理事の大寺智子さんも4月にルワンダへ初渡航し、ウムチョムイーザ学園の校歌と算数の授業をしたときの報告があった。

JICA二本松からは、TICAD7や協力隊時代のアフリカでの体験の話があり、富久栄珈琲の中島茂社長からは、会場で振る舞われたスペシャルコーヒーの興味深いお話があった。

2部でルワンダから迎えたゲスト ManiMartin（マニ・マーティン）と Daisuke Katsumata さんによる音楽セッションがあり、楽曲「インババジ〜ゆるし〜」を披露したほか、郡山ザベリオ学園のコーラス部の子どもたちとウムチョムイーザ学園の子どもたちをスカイプでつなぎ、未来をにやう2か国の子どもたちのパフォーマンスでフィナーレを飾ることができた。

また、7/16～7/21まで、富久栄珈琲さんと共同開催の、ルワンダウイークも郡山うすいで開催された。郡山の会員などが中心となり、ルワンダコーヒーや雑貨を販売し、写真を展示した。各方面からたくさんの方が来場し、会員の入会するきっかけに繋がったことも嬉しかった。

#### ② 「ルワンダ写真展 IN ふくしま」：2020/1/6（月）～11（土）

場所：福島市チェンバおおまち1F

2019年度の1年間の活動写真や今年で20周年を迎える当会の新しい写真も加え、模造紙にはり、コメントをつけた、手作りのあたたかい雰囲気の写真展になった。また、今年は街なか夢工房のメンバーが毎日交代で夢詰麦パンの販売をし、来場者からおいしい！と喜ばれた。

最終日には、元ラジオ福島アナウンサーの大和田新さんと千葉県で活躍するなかよし学園校長の中村雄一さんファミリーを迎え、ルワンダへ渡航した体験を報告した。そして、シャロームから夢詰麦パンの売上の一部が、ウムチョムイーザ学園のこどもたちの給食代として寄付された。

#### (4) ルワンダの生活や文化を紹介すると共に、ルワンダの人々の自立支援に関する事業

40を超える会場で ルワンダの生活や文化の紹介をし、合わせてコーヒー、紅茶、民芸品を販売してルワンダの人々の自立支援をサポートした。最近では繰り返し買ってくれるリピーターも増え、また、会員がそれぞれの場所で、ルワンダの活動紹介に使ってくれている。

#### (5) その他目的を達成するために必要な事業

##### 東日本大震災復興支援事業・ルワンダカフェ

二本松市平石の仮設住宅から石倉団地や、いわき、原町など、新しい生活を始めた場所へも足をはこび、ルワンダカフェを7回開催した。震災直後から始まったルワンダカフェも9年経過して避難者が仮設住宅から復興住宅や移転先へほぼ移住した。最近では、ルワンダカフェで出会った方が、講演やコーヒー販売の場を提供してくれたり、近くのイベントでボランティアとして手伝いに来てくれている。これまでのつながりを大事にし、何でも話せるルワンダカフェの役割は新しい広がりを見せている。

## 2. その他の事業

### 参加型イベント参加

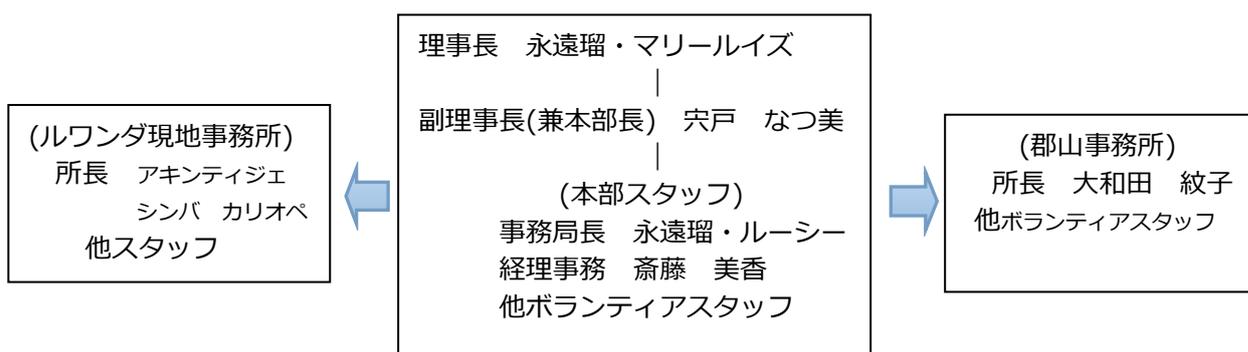
各種団体が主催するイベントに参加して、会員・支援者の方々と来場の皆様に会の活動とルワンダの紹介、ルワンダ民芸品やコーヒー、紅茶の販売を行った。販売収益は会の運営、ルワンダの人々の自立支援と教育支援にあてた。

<主な参加イベント>

- ・手づくりマルシェ (5/25~26) ・オレンジカフェ (毎月第4木曜日)
- ・桜の聖母大学祭(11/3) ・岩沼やJICA関西など写真展
- ・結・ゆいフェスタ など 計62回

※今年度は、台風や、コロナの関係で開催中止になったイベントがいくつかあった。

## 3. 事務局関連



### (1) 事務局組織運営

#### ① 理事会開催

年2回 2019年 7/26 2020年 1/25

- ② 事務局強化  
事務局会議開催  
年9回 5/9 6/18 8/26 9/25 10/23 11/27 12/28 2/12 3/4  
事務局長（常勤）を中心として、ボランティアスタッフとの連携で講演活動のスケジュール調整、イベント企画、各種イベント出店、その他の国内活動をすすめてきた。
- ③ 組織状況・・・2020年3月末現在（ ）は前年度数  
正会員 87名（72名） 賛助会員 104名（108名）  
自動引落定額寄附者（500円寄附者）62口（59口 目標100口）
- ④ 組織強化  
各種イベントに参加し、当会のチラシを配布するなど活動のPRに努めている。また、2月にはスタディツアーに事務局長が同行するなど日本とルワンダの交流も深めている。また口座自動引落の定額寄附者も毎年確実に増えている。賛助会員、定額寄附者の増加により認定NPO法人の申請に向けた条件が整いつつある。
- ⑤ ルワンダ事務所の活動  
スタッフ4名が常駐し、ボランティア、インターンが協力し、ウムチョ学園の校内研修、ミヨベ支援と、ルワンダでのNGO活動の拠点となっている。  
広島市立大学の久永奈さんや文教大学の片山五月さんなどの大学生インターンを受入れたり、ルワンダ在住の古川さんや、ルワンダ人インターンのフラビエさんなど、事務所活動の大きな力となった。また日本からの訪問者が増えており、現地事務所はその受入れ業務が大きな役割になっている。毎週月曜日にはスタッフ会議を開催し、日本側とネットで情報を共有する体制ができつつある。

## （2）広報事業

- ① 通信（ニュースレター）を年3回発行（2019年4月、7月、12月）  
当会の国内活動、ルワンダの学園の様子、プロジェクト状況、ツアー参加者のレポート等を掲載し、会員、支援者に活動報告するとともに、イベントや講演会で配布し一般市民への広報活動に活用してきた。
- ② ホームページ、SNSの充実  
国内活動、ウムチョムイーザ学園の様子、ミヨベの様子などをホームページやSNSで情報発信してきた。

### ③メディアへの発信

新聞やテレビなどマスコミの取材を積極的に受けてきた。  
(主なもの)

2019. 6. 30 民報新聞 県ユニセフ協会 創立 15 周年  
「つどい」で発展誓う
2019. 6 月号 コミュニティ アイ (岩沼版)  
7 月 3 日マリールイズさんが岩沼市民図書館にて講演します。
2019. 7. Unicef news vol 262 2019summer
- 2019.7.14 民報新聞 母国の歴史伝える  
ルワンダ歌手迎え交流会
2019. 7. 民報新聞 ルワンダの現状知って  
21 日までうすいでウイーク
2019. 7. 19 民友新聞 ルワンダを感じて  
音楽通じ会場一体・うすいで文化紹介
2019. 8. 6 民報新聞 ルワンダ支援に理解  
貧困地区の課題など紹介
2019. 9 月～10 月 須坂新聞 「ルワンダ教育支援No.1～5」  
私たちにできること
2019. 11. 4 民報新聞 「大和田新さん、ルワンダ訪問」
2019. 11. 14 読売新聞 (長野県) 「避難所コーヒーでホッと」
2019. 11. 23 須坂新聞 (長野県) 命、平和、教育の大切さ  
大虐殺生き抜いたルイズさん語る
2019. 11. 24 毎日新聞 余禄
2019. 12. 10 民報新聞 ルワンダと関係深める
- 2020 年 早春号 vol89 号 ふくサポ通信  
「NPO 法人 ルワンダの教育を考える会」写真展及び報告会を開催しました
2020. 1. 12 民報新聞 「ルワンダ報告会」  
中村さん姉妹のルワンダ体験報告
2020. 1. 16 民友新聞 「ルワンダ報告会」  
大和田新さん、帰国報告会
2020. 1. 24 中国新聞 「ルワンダインターンシップ」
2020. 2. 24 民報新聞 「JICA 訓練生マリールイズさんと懇談」
2020. 3. 15 カトリック新聞 「教育は平和と発展のカギ」

## 第3号議案

### 2020年度 事業計画

※今年度は、コロナウイルスの影響でどこまでできるかわかりませんが、状況をみながら進めていきたいと思えます。

#### 1. 特定非営利活動に係る事業

##### (1) 内戦の体験に基づく命と平和、教育の大切さを伝える事業

全国の学校、公民館・各種団体などから依頼を受けて、理事長が内戦の体験に基づく命と平和、教育の大切さを伝える講演活動を行う。  
(今年度の予約はキャンセル続きで見通しがついていない。)

##### (2) ルワンダの教育支援事業

###### ①ウムチョムイーザ学園とその周辺地区のこども達の支援事業

###### ②こどもの健康診断事業

###### ③ミヨベプロジェクト

###### 支援項目

###### ①農業支援

###### ②おかゆ・給食支援

###### ③母子保健

(洋裁・刺繍・石鹸などの技術訓練は休止中)

※②と③は、保原ロータリー(日本)とビルンガロータリー

(ルワンダ)との共同事業であるグローバル補助金からくる資金で計上するため、会としての予算は0円になっています。

###### ④ルワンダでの講演活動

##### ⑤学校保健プロジェクト(新規)

○保健室の整備

○こども達の健康管理

○健康増進・予防教育

○両親や養育者に対する健康予防教育

○ヘルスパスポートの用意

※ラッシュジャパンから助成金をもらい、実施予定。本来は、2020年4月～2021年3月に予定していたが、コロナの影響で現在はいつスタートできるかわからない状態。スタートできたところから一年間のプロジェクトとなる

##### (3) 異文化理解のためのイベント事業

①Rwandaful Summer2020 開催：今年は20周年を記念して開催予定だったが、コロナの影響で夏ではなく、年度内開催を目指す

②ルワンダ写真展・報告会の開催：2021年1月上旬予定

(4) ルワンダの生活や文化の紹介と自立支援に関する事業

他団体との共催や各種団体が主催するイベントに参加し、ルワンダの生活、文化を紹介する写真展開催や、民芸品、コーヒー紅茶などの販売を通してルワンダの人々の自立支援を行う。また講演会などでも会場においてミニ写真展の企画を主催者に提案し、同時にコーヒー・紅茶の販売拡大に努めていく。

(5) フォローアップ事業

※JICA 草の根算数プロジェクトの終了を受けて

JICA の算数プロジェクトは 2019 年 1 月に終了したが、その後も毎週水曜日の午後に校内研修会を開くなどの形で教員の指導力を高め、また周辺校の先生方も交えた研修会や、協力隊などとの連携の可能性も含め検討する。

(6) 20 周年記念事業準備（新規）

会発足から 20 年の節目となる今年、これまでの会の歩みを振り返り、これまで会にかかわってきた方々の思いや願いをまとめる。

(7) 技術訓練校の建設の検討（新規）

期限を定めず、ウムチヨムイーザ学園を卒業後に進学できる技術訓練校をつくる検討が始まった。

## 第5号議案

### 「コロナ緊急募金」について

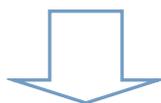
コロナウイルスの影響で予定していた講演会やイベントも中止となり、子ども達のために、何かを実施したくても予算をくめない項目が続出しております。

会のほうも、経費を減らしたり、助成金を申請したり、できる限りの努力は行いますが、今年度はやはり、今年は会の収入を皆様のご寄付にたよらなくてはなりません。

今回のコロナウイルスの影響でルワンダでも子どもたちの保護者が失業して学費や給食費が払えなくなったケースもでています。ミヨベでは、このままだと、また栄養失調になる可能性もあります。

皆様どうか今年度を乗り切るために、力をお貸してください。

ルワンダの教育を考える会では、今年度、「コロナ緊急募金」として、皆様にご協力をお願いします。募金は、下記口座までお振込みください。



**郵便振替口座：02290-0-97126**

**加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会**

**※みんなで力を合わせてこのコロナ危機を乗り越え、20年の歩みを止めることなく、前に進んでいきましょう。**

## 6号議案

### 役員を選任について

役員の改選について、以下の通り、理事・監事の候補を提案します。(敬称略)

2019年度役員		
役職名	氏名	住所
理事長	永遠瑠 マリールイズ	福島・福島市
副理事長	倉持 睦子	埼玉・久喜市
副理事長	穴戸 なつ美	福島・福島市
理事	大槻 美智子	福島・福島市
理事	鈴木 恵子	福島・広野町
理事	大寺 智子	福島・福島市
理事	佐野 孝治	福島・福島市
理事	望月 優子	大阪府・豊中市
監事	菅野 直芳	福島・伊達市

2020年度役員 候補		
役職名	氏名	住所
理事長	永遠瑠 マリールイズ	福島・福島市
副理事長	倉持 睦子	埼玉・久喜市
副理事長	穴戸 なつ美	福島・福島市
理事	大槻 美智子	福島・福島市
理事	鈴木 恵子	福島・広野町
理事	大寺 智子	福島・福島市
理事	佐野 孝治	福島・福島市
理事	望月 優子	大阪府・豊中市
監事	菅野 直芳	福島・伊達市